

緑の風 FAX版



NO. 102 2019年3月25日 JR東労組

JR 東労組ホームページ

3月23日

三陸鉄道全線再開!



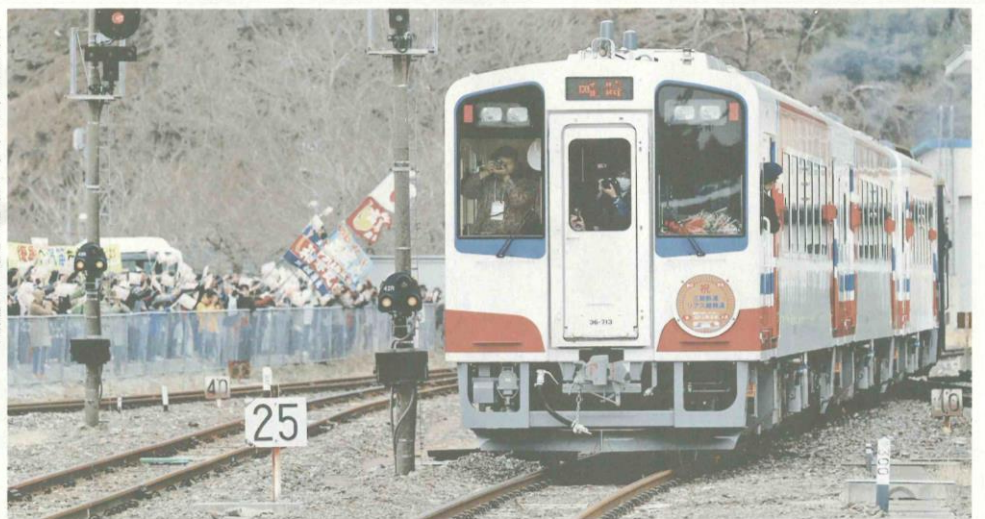
この写真は3月20日の試運転中のものです！
3月23日以降も安全第一で運転します！

JR東日本・宮古駅は3月22日までで、今は三陸鉄道・宮古駅です。



3月19日撮影

三陸鉄道へ「人的支援」として盛岡地本の仲間が出向して3カ月が経過し、全線再開を無事に迎えました。右の新聞記事にもあるとおり、路線存続が危ぶまれました。東日本大震災以降、復興のためのボランティア活動をJR東労組は多くの仲間と共に実践し、地域との信頼関係を深めました。そして、沿線地域のみなさんと共に鉄路を残すための署名行動をおこない、40万筆の署名を国土交通省へ提出してきました。三陸鉄道に移管しての運転再開となりましたが、地域のみなさんは8年間待ち望んでいました。鉄路は繋がっているからこそ存在意義があります。地域のみなさんと共に、繋がった163kmを二度と途切れることのないようにしていくことが今後重要となります。



復興鉄路つながった

8年ぶり 宮古—釜石、三陸鉄道に

東日本大震災の津波で不通になっていた岩手県沿岸部のJR山田線宮古—釜石間(55.4km)が23日、第三セクターの三陸鉄道(三鉄)に経営移管され、8年ぶりに同区間での運行を再開した。同区間を南北に挟んで三鉄の「南リアス線」(釜石—盛)、北リアス線(久慈—盛)とつながり、全区間を「リアス線」と改称。第三セクターでは最長となる全長163kmの路線が誕生した。
【佐藤慶、小銀治孝志】
同県釜石市の釜石駅で午前11時に始まった出発式には、中村一朗社長や運営推進拓也理事、渡辺博道復興相らが出席。中村社長は「地域の首長の足を守ることもに交流人口の拡大を進め、沿岸地域の活性化、地域の振興にしっかりと役割を果たしたい」とあいさつした。この日は記念列車の運行のみで、午前11時40分同駅発の1号列車には、公募で選ばれた約40人と来賓らが乗車した。24日から新ダイヤで運行される。
宮古—釜石間は津波で鉄路が流され、7駅が被災。JR東日本が2012年、バス高速輸送システム(BRT)による仮復旧を提案し、路線存続が危ぶまれたが、県や沿線自治体との交渉の末、JR東が鉄道を復旧し、三鉄への移管で合意した。不通となっていた三鉄の南北リアス線は14年4月に全線再開していた。
三鉄の利用者は、開業した1984年度は268万人だったが、年々減少し、17年度は52万人。関係自治体は、鉄道施設の修繕や維持費用を負担する「上下分離」方式で同社を財政支援している。